

第38回 一日舞踊大学講座 2020ダンスと教育

現代舞踊協会研究企画部では、未来の文化を担う次世代の若者に視点を絞ります

私に興味があるのは、ひとがどう動くのか
ではなく、何がひとを動かすのか、ということ
「踊りなさい。自らを失わないように。」
ピナ・バウシュ

市田京美 ワークショップ

Thomas Duchatelet (トーマス・デュシャトレ) と共に

今だから伝えたい ピナ・バウシュの 舞踊の真髄

2020.3/14 [土]

9時50分～17時00分 (9時20分より受付)

スタジオF (旧 芙二三枝子舞踊研究所)



ピナファンにも若い世代にも、またとない開かれたワークショップです!

◎ワークショップとデモンストレーション

「ピナ・バウシュの身体表現」

市田京美 トーマス・デュシャトレ

◎そこが知りたい海外研修

大橋美帆

◎座談会

「舞踊の多様性の時代に、改めて
ピナ・バウシュの世界を検証しその魅力を探る」

市田京美 トーマス・デュシャトレ 貴 成人 加藤みや子

◎参加者によるグループワークのデモンストレーション

ピナ・バウシュ ウッパタール・タンツテアターの元ダンサー、市田京美氏は、80~90年代、世界の舞台でピナの作品を踊ってきた素晴らしいダンサーだ。ピナ・バウシュの名がブランド化する以前の、そしてカンパニー黄金期の、クリエイティブなエネルギーの溢れていたピナを知る、ダンサーの1人だ。ピナ・バウシュの舞台を観たことのある人は誰もが、五感を揺さぶられ、その衝撃は、観る者の肉体をえぐられ、心を丸裸にされたような体験をしたのではないだろうか。作品は、社会風刺的でもありながら、官能的で、滑稽、残酷で、無垢。個人的なようで、普遍的。そしてそれは恐ろしいほどに美しいのだ。ピナは、これまでのダンスの概念を変え、独自の手法で、ダンスの新しい美学を開いた振付家だが、2009年に急逝。世界中の人たちがこの天才の死を悲しんだ。

しかし、すでに彼女の作品を劇場で観たことのない若者たちが多くいると聞いて、驚くと同時に、ピナの世界を次世代の人たちに伝えたいという思いから、研究企画部では、一日舞踊大学講座に、市田京美氏と、やはりピナのダンサーであり、彼女の夫でもあるトーマス・デュシャトレ氏を講師として迎えることになった。没後10年経った今も、ピナの舞踊魂は、私たち観客の心の中に生き続けているし、市田京美とトーマス・デュシャトレの身体の中に生き続けているに違いない。ピナと共に生きた彼らの人生が語り導く舞踊の真髓が皆さんの心に届くことを願う。

10:00~12:20 ワークショップとデモンストレーション

ピナ・バウシュの身体表現
時間・空間・重さの3つの要素 / 身体の内側から外側へ /
身体の解放、自己の発見 講師：市田京美 トーマス・デュシャトレ

12:20~13:00

そこが知りたい海外研修 報告者：大橋美帆 (イスラエル)

14:00~15:30 座談会

舞踊の多様性の時代に、改めてピナ・バウシュの世界を検証し
その魅力を探る

パネラー：市田京美 トーマス・デュシャトレ 貫成人 加藤みや子

15:30~16:45 受講者によるデモンストレーション

ピナ・バウシュのレパートリーから学ぶ

身体的表現において重要な呼吸法に重きを置いた身体の動き、身体と空間の関係を知る。ピナが発展させてきたタンツテアターの考え方をベースに、即興などの実践を通して、想像力を高める。

2020. 3/14 [土]

参加費… 一般 4,500円 協会員 4,000円 学生 3,500円 (半日参加 3,000円)

定員40名 (定員になり次第締め切り)

主催：(一社)現代舞踊協会 企画・制作：研究企画部 (加藤みや子 馬場ひかり 藤井香 細川麻実子)

●申込方法

現代舞踊協会

検索

Webからのお申し込みは、現代舞踊協会ホームページ内「一日舞踊大学講座」の申込フォームより送信ください。

FAX 03-5457-7732

FAXからのお申し込みは、下記申込用紙に全項目を
読みやすい文字で明記の上、左記FAX番号へ送信ください。

●申込締切 3月10日 (火)

●お問い合わせ (一社)現代舞踊協会事務局 TEL.03-5457-7731
〒150-0021 渋谷区恵比寿西1-21-3 グレイス代官山402号

一日舞踊大学講座申込書

*協会員で「舞踊指導者認定」申込の方は右に○をして下さい。 認定申込
 *ダンスプラン出演者の方は右に○をして下さい。 ダンスプラン出演者

フリガナ

所属研究所 / 舞踊団

氏名

住所 〒

(○をお付け下さい)

一般 / 協会員 / 学生 / 高校生 / 学生 / 高校生協会員

TEL

FAX

E-mail

*携帯でも可ですが、諸連絡の都合上、できるだけパソコンのアドレスをご記入下さい。



市田京美 いちだ・きょうみ

ハンス・ツェリッヒ教授(ヨースバリエ団ソリスト、 Folklokväng 芸術大学舞踊学部長)に師事。1973年に渡欧。ウエスト・ロンドン・カレッジ、バリエ・ランパート・スクール後、1977年スザヌ・リンケがディレクターを務めていたドイツの Folklokväng・ダンス・スタジオで活動。その後、ピナ・バウシュとプッパタル舞踊団の『春の祭典』へのゲスト出演の後、1982年プッパタル舞踊団に入団。数多くの作品に出演。1998年退団後も2002年までゲスト出演。1998年よりトーマス・デュシャトレ・カンパニーに参加し、ダンス指導やリハーサルディレクターとして活動。



Thomas Duchatelet トーマス・デュシャトレ
 1985年アンジェ・コンテンボラリーダンス・アカデミー卒業後、2年間ニューヨーク公費留学。1987年スーザン・バージ・ダンスカンパニーに参加。1988年ピナ・バウシュとプッパタル舞踊団に入団、『春の祭典』『パレルモ、パレルモ』『コンタクト・ホーフ』などに出演。1995年本国フランスに戻りトーマス・デュシャトレ・カンパニーを設立。2008年5月、日本の戦(のぼり)からインスピレーションを得た舞台作品『シャボン』で初の日本公演を実現。



貫成人

専修大学文学部哲学科教授、舞踊批評、舞踊学会副会長。東京大学文学部哲学科、東京大学大学院哲学専攻博士課程、埼玉大学教養学部助教授を経て、2000年より現職。単著『経験の構造：フッソール現象学の新しい全体像』(勁草書房2003)など。論文『コンテンボラリーダンス』(鈴木晶編著『バリエとダンスの歴史：欧米劇場舞踊史』平凡社2012)など。『ダンスマガジン』『照明家協会雑誌』などに舞踊評論執筆。2010、2014年度 京都賞専門委員会委員、2018年度同審査委員会委員。青山DNA実行委員会理事。



加藤みや子

加藤みや子ダンススペース主宰。森嘉子、藤井公、利子に師事。仏・パニョレコンテ、伯・巡回公演(国際交流基金主催事業)、米・フェスティバル巡演等に招聘され高く評価される。83年よりアネックス仙川ファクトリーを拠点に各地で五感を開くワークショップやアーティスト交流の場、HHWを開催。江口隆哉賞、ニムラ舞踊賞など受賞。現代舞踊協会常務理事。日本大学芸術学部非常勤講師。



photo:Nurit Peled

大橋美帆

1990年生まれ。3歳より谷乃梨絵に師事しモダンダンスを始める。日本大学芸術学部に進学しダンスと創作について学ぶ。卒業時に学部長賞を受賞。卒業後は谷乃梨絵を始め国内外の振付家の作品に出演する他、作品の創作活動を続け、平成30年度新進芸術家海外研修制度研修員として一年間イスラエルへ留学。平成23年度現代舞踊協会制定新人振付賞受賞。第48回埼玉全国舞踊コンクール現代舞踊成人の部第1位。第5回DANCE CREATION AWARD 創作シニア部門第1位。